

## 平成29年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

## 1 評価結果の分析

- 「教育的な支援の観点に立った授業を行う」ことについては職員間で共通認識ができており、教材作成や授業、試験問題、生徒への発問や言葉かけ等の工夫・改善が図られており、一定の成果を上げることができた。
- 教育的な支援が必要な生徒に対しては、教職員で協議し、組織的に関係機関との連携や、研修会を開催し、夏季休業中に補充授業を実施するなどして、個に応じた取組を行うことができた。
- 「キャリア教育ワークシート」の実施率が84%で、この調査を行うことで、多くの生徒が自分自身を見つめなおすことができた。
- キャリア教育において、看護体験学習やジョブシャドウイングからインターンシップの取組みに参加した生徒たちが、充実感や達成感を得て次の行動に向けての意欲につながった。
- 今年度に入ってから現在までの休学者は2名である。
- 生徒の登校時から下校時に至るまで、玄関前及び校門周辺での巡回を毎日行なうことにより、生徒の安全を確保し、生徒の状況の把握に努めてきた。
- 校外清掃ボランティアの参加率は25%であり、遠足は50%、合同運動会は39%の参加率であった。また、地域貢献活動として生徒会が中心となりグローバルスクールへも参加した。
- 第1回目の「学校生活改善アンケート」生徒集約では、「学校に行くのは楽しいですか」の質問に、「楽しい」が18.9%、「まあまあ楽しい」が45.9%の結果であり、64.8%の生徒が肯定的に考えている。また、保護者集約では、「学校に子どもを安心して通わせることができるか」の質問に、「安心できる」が48.8%、「大体安心できる」が47.1%で、肯定的にとらえている保護者が95.9%であった。
- ホームページの更新回数は28回、メール配信システムについては、53%の生徒が登録、37.8%の保護者が登録をしている。
- 分掌が組織的に機能し、分掌会議の中で学校行事が立案されたりして、例年以上に行事の活性化が行われている。

## 2 今後の改善方策

- 授業満足度については一定の評価が見られるが、個の生徒に視点をあてたとき、どのような支援が必要か、また、その支援が生徒の主体的な学習につながっているか、生徒が達成感・充実感を得るものになっているかという視点を持って支援の内容を決定することが課題である。
- 2学期は振り返りシートについての活用方法や、成果や課題の共有化の方法について、部内で意見交換する場を設ける必要がある。
- 日常の授業と同じように、全ての校内活動の中に教育的な支援の視点が盛り込まれ、組織的な活動を行う必要がある。そのためには、日常の生徒の変化を読み取り、その読み取った情報を共有し、機敏に対処する教職員の指導力の向上が、今後の課題である。
- 「キャリア教育ガイダンス」「キャリア講演会」「生活体験文の記録」が、自己肯定感を高めるものになるように、進路指導部を中心として改訂内容を具体化していく。
- 授業中の巡回指導を行い、不安定な状況の学校生活である生徒に声かけを行う。また、問題行動として現象化するような行為に対しては、その場で適切な指導を行い、未然防止に努める。
- 生徒指導体制の機能化を図り、組織的に早期対応が出来るシステムを具体化する。
- ボランティア活動に参加する生徒を増やす。
- 「生徒の安心・安全度の指標となる数値が明確になる」など、アンケートの設問や文言の見直しを総務部を中心に行い、生徒の状況や課題が明らかになるような内容になるよう変更する。
- 第1回の「学校生活改善アンケート」の保護者の提出率が94.6%で、昨年度の第1回と比べて向上した。これは夏休み中の懇談などを利用した結果であるが、12月に実施する、第2回目も、提出率下がらないように保護者連携等を更に深める。
- ホームページ担当者の育成と共に、誰もが操作できるホームページを作成する。
- 既存のホームページに改良・修正の余地がないかを点検し、ホームページの内容を各分掌で分担して作成する。
- 生徒指導部(生徒会係)が中心となって、生徒が発言する場を設け、そこで出された意見を実現できるような体制を構築する。
- 生徒が自分自身の経験値を高め、併せて地域に貢献できるような教育活動や学校行事を考えていく。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- 学校関係者評価結果を踏まえて、評価指標の設定の在り方を検討する。その中で容易に達成できそうな目標は、年度途中であっても新たな目標に変更する。
- 生徒が本校で学ぶなかで、入学時からどのように変わっていったか。そういう変化が明らかになるような取組について、外部に発信して、本校の教育活動を広く伝えるような教育活動を展開する。
- 全ての教育活動について、具体的な取組内容を考え、職員がその活動を容易に理解できるようにする。そのことによって、組織的な活動や、ゆとりを持って行動ができるようになり、職員の業務改善にも繋がると考える。